

(えびな九条の会会報 15 年 10 月号投稿原稿)

「アベ政治を許さない」ローマ法王フランソワの提言—武器販売の禁止—

私はカトリックではない。しかしローマ法王が 9 月下旬のアメリカ訪問で行った講話の提言内容をラジオフランス国際放送で知って、それにいたく同感した。彼は、24 日連邦議会議事堂前の広場に集まった 5 万人の人々に対して「酷い苦難を押し付けて血にまみれた金銭を生み出す武器の販売」の廃止を言い、25 日国連本部での各国指導者に要求する演説では「麻薬と武器の売買」を「人身売買」などとあわせ早急に解決手段をとるべき現象だとしている。ワシントンでの講話は、死刑の廃止と共に言われているのである。あるいは銃器販売自由のアメリカに限って向けあ訴えかと思っただが、ニューヨークの演説で武器売買禁止が全世界の要求だと明言された。

ひるがえってわが日本のアベ政治のもとで、昨年 4 月には武器輸出三原則が廃止され、この 10 月 1 日には武器輸出を促進する防衛装備庁が発足した。日本の戦争国家への変身を煙幕で隠すアベ経済政策＝アベノミクスでは公然といわれることのない軍事産業の強化育成が着々と進められている。国家予算でも軍事費が膨張し社会保障費が緊縮だ。

企業に世界最良の環境を作ることが賃上げ→内需拡大の好循環を生み出し経済を強化すると唱えるアベノミクスは 3 年目に入って、「好循環は達成された」と全くのウソを言いつつ、新たな三つの矢を提唱して欺瞞の煙幕を張り直した。アベノミクスの司令塔に居る甘利明氏が 9 月 27 日に私の居住区域の「敬老のつどい」に来賓として現れ、戦争法については一言も言わず「経済を強め保育と介護を充実する」と述べたごときだ。

危険で欺瞞的なアベ政治は選挙で後退させあるいは終わらせることができる。カトリックも共産主義者もそれぞれの思想信条は堅持したまま「アベ政治を許さない」の一点での共同の闘いを一層強めよう。「九条の会」はそうした戦線の一つだということを改めて肝に銘じている。

在住)

下山房雄 (国分南やまに平